

平成30年度

事業報告書

自；平成30年(2018年)3月1日

至；平成31年(2019年)2月28日

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を1回、理事会を4回、それぞれ開催して案件の審議、決定を行いました。また毎月定例として業務運営委員会を開催（12月を除く）して当面の諸案件について協議、連盟運営の円滑化を図りました。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、財務、審判規則、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、医科学、技術・振興、プロアマ健全化、特待生問題研究、連盟70年史編修）を必要に応じて随時開催し、諸問題の検討を行い、高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。また、審議委員会を開催し（全体委員会を年5回、小委員会を週1回計45回）、不祥事件に対する指導を行うとともに、不祥事件発生防止の重点目標を5項目（指導者の部内暴力の根絶、部員のいじめ行為の絶滅、インターネットや携帯電話のメールによる迷惑行為の防止、部活動引退後の3年生部員への指導の徹底、アウトオブシーズン中の指導の徹底）を挙げて、諸会議や通達で指導徹底を行いました。さらに「高校野球200年構想」推進委員会を随時開催し、「普及・振興」「けが予防・育成」「財政・財源」を3つの柱として、高校野球の未来について協議しました。
- (3) 年度内に各都道府県高等学校野球連盟会長会議を1回、同理事長会議を2回それぞれ開催し、加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。
- (4) 本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。
- (5) 各種表彰（日本学生野球協会優秀選手表彰、育成功労賞表彰、都道府県功労賞）を行いました。
- (6) 高等学校野球の普及、振興のため、部員不足による連合チームの大会参加を認めることとしました。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第90回記念選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で平成30年3月23日（金）から4月4日（水）までの12日間（休養日1日）、阪神甲子園球場で開催、平成30年1月26日（金）に開かれた選考委員会で選考された36校が参加し無事盛況のうちに終了、大阪桐蔭高等学校（大阪）が2年連続3回目の優勝を果たしました。準優勝は智辯和歌山高等学校（和歌山）。

(2) 第100回全国高等学校野球選手権記念大会

朝日新聞社と共催で平成30年8月5日（日）から21日（日）までの17日間（休養日1日）、阪神甲子園球場で大会史上最多の56校が出場して開催した。大阪桐蔭高等学校（大阪）が4年ぶり5回目の優勝、2度目の春夏連覇（史上初）を果たしました。準優勝は秋田県立金足農業高等学校（秋田）。

(3) 第63回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て、平成30年8月24日(金)から29日(火)までの6日間(休養日1日)、兵庫県の明石トーカロ球場とウインク球場(姫路球場)の2球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。中京学院大学附属中京高等学校(東海・岐阜)が2年連続9回目の優勝を果たしました。準優勝は大阪府立河南高等学校(大阪)。

(4) 第73回国民体育大会・高等学校野球競技

福井県で硬式の部、軟式の部ともに平成30年9月30日(日)から10月3日(水)までの4日間でそれぞれ開催。いずれも初日が雨天中止。

硬式の部は、福井市の福井県営野球場で12校が参加。大会初日が雨天中止のため、3日間で開催。大会規定により、浦和学院高等学校(埼玉)、秋田県立金足農業高等学校(秋田)、大阪桐蔭高等学校(大阪)、近江高等学校(滋賀)の4校が1位。

軟式の部は、福井市の福井フェニックススタジアムで10校が参加。大会初日が雨天中止のため、3日間で開催。中京学院大学附属中京高等学校(岐阜)が2年連続7回目の優勝を果たしました。準優勝は秋田県立能代高等学校(秋田)。

(5) 第49回治神宮野球大会・高等学校の部

平成30年11月9日(金)から13日(火)までの5日間、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、秋季地区大会の優勝校10校が参加し、札幌大谷高等学校(北海道)が初優勝を達成しました。

(6) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(青森)、関東(千葉)、北信越(石川)、東海(愛知)、近畿(兵庫)、中国(山口)、四国(高知)、九州(福岡)の全国9地区で平成30年4月下旬から6月上旬にかけて開催しました。

(7) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(秋田)、関東(山梨)、東京、北信越(新潟)、東海(三重)、近畿(兵庫)、中国(岡山)、四国(香川)、九州(熊本)の全国10地区で平成30年9月下旬から11月上旬にかけて開催しました。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 加盟校数、部員数調査

平成30年5月末現在の硬式、軟式それぞれの加盟校数、部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が153,184人(8,389人減)で4年連続の減少、軟式が8,755人(548人減)で5年連続の減少。また、加盟校数は硬式が昨年から18校減の3,971校、軟式が8校減の428校。

(2) 日本高等学校野球連盟70年史

平成25年から編修委員会を立ち上げ、編修作業を続けていた連盟70年史を平成30年11月上旬に発刊した。刊行部数1,000部、都道府県高等学校野球連盟に各3部、各種団体に約100部、図書館（都道府県立・政令指定都市）に約70部など800部を贈呈した。

さらに200部を平成30年12月から一般を含めた希望者に有償頒布することとした。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

- (1) 年度内に開催の第90回記念選抜大会と第100回選手権記念大会に参加した投手全員を対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

	(90回選抜)	(100回選手権)
検査受診者数	116人	186人

検査の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 新任理事長研修会

平成30年度新たに就任した都道府県連盟理事長8人(北海道、栃木、群馬、新潟、静岡、三重、愛知、愛媛)を対象に、平成30年5月21日(月)、22日(火)の2日間、中沢佐伯記念野球会館で研修会を開催しました。

(2) 審判講習会

第58回全国審判講習会を平成30年5月12日(土)、13日(日)の両日開催。実技は阪神甲子園球場、座学は兵庫県立総合体育館で実施。各都道府県から参加した受講者48人(各都府県1人、北海道は2人)を対象にルール研修や実技指導を行いました。

北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

日本高校野球連盟審判委員の技術向上及び人財育成のための指導力向上を目的に平成31年2月17日(日)、実技ならびに座学研修を関西大学野球部室内練習場で行った。対象者は第91回選抜高等学校野球大会に委嘱された審判委員。

また、プロとアマとの審判の交流、情報交換を目的に平成31年1月28日(月)に第24回プロアマ合同審判研修会を中沢佐伯記念野球会館で開催。プロから23人、アマ(社会人、大学、高校)から41人が参加した。

その他に、中学・少年野球育成事業の一環として、20回目の少年野球合同審判研修会を平成31年2月2日(土)、3日(日)に開催、少年野球3団体所属(ボーイズリーグ、リトルシニア、ヤングリーグ)の審判35人を対象に審判技術の統一と向上を図りました。

(3) 指導者研修会

都道府県連盟主催の加盟校指導者研修会に講師を派遣しました。

(4) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

高校野球のよき指導者となるために、教員在籍10年未満の指導者を対象に2回開催しました〔第1回；平成30年11月16日(金)から18日(日)、第2回；平成30年11月30日(金)から12月2日(日)のそれぞれ3日間〕。各回27人が参加して、近府県加盟校の協力を得て、グラウンドでの実技研修ならびに中沢佐伯記念野球会館での座学研修を行いました。

(5) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、2カ所で開催しました。開催結果は次のとおり。

① 平成30年12月8日(土) 石川県 こまつドーム、小松大谷高校

受講者；加盟校数36校、部員167人

② 平成30年12月16日(日) 奈良県 佐藤薬品スタジアム、県立橿原高校

受講者；加盟校数40校、部員225人

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

年度内に次の国際大会に参加し、野球を通じて諸外国と親善、友好を深めるとともに、相互の競技力向上に努めました。

(1) 第12回BFA U18 アジア野球選手権大会

平成30年9月3日(日)から10日(月)までの8日間(1日雨天順延)、日本・宮崎で開催された第12回BAF U18 アジア野球選手権大会に高校日本代表チームが出場しました。参加は8カ国・地域が予定されていたが、大会前日にパキスタンが不参加、7カ国・地域で開催した。

◇最終順位

第1位 韓国(2大会ぶり5回目)、第2位 チャイニーズタイペイ、

第3位 日本、第4位 中国、第5位 スリランカ、第6位 香港、

第7位 インドネシア、第8位 パキスタン(不参加)

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 野球各団体との提携

全日本野球協会、日本野球連盟、日本学生野球協会、全日本大学野球連盟と定期的に打ち合わせを開催。

(2) 学生野球資格回復に関する協議会

日本学生野球協会と日本野球機構ならびに日本プロ野球選手会が元プロ野球選手の学生野球資格回復について検討する学生野球資格回復に関する協議会に参画しました。

8. 就学前児童、小学生、中学生に対する野球の普及、振興

小学校、中学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

小学校、中学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 高校野球200年構想関連事業

普及、振興、けが予防、育成、基盤作りをテーマに、高校生だけでなく就学前児童、小学生、中学生まで対象を拡げて、各種事業を実施した。

初年度となる平成30年度は都道府県高等学校野球連盟が主体となって120を超える事業が42都道府県連盟で実施された。

以 上